

モヤウ記

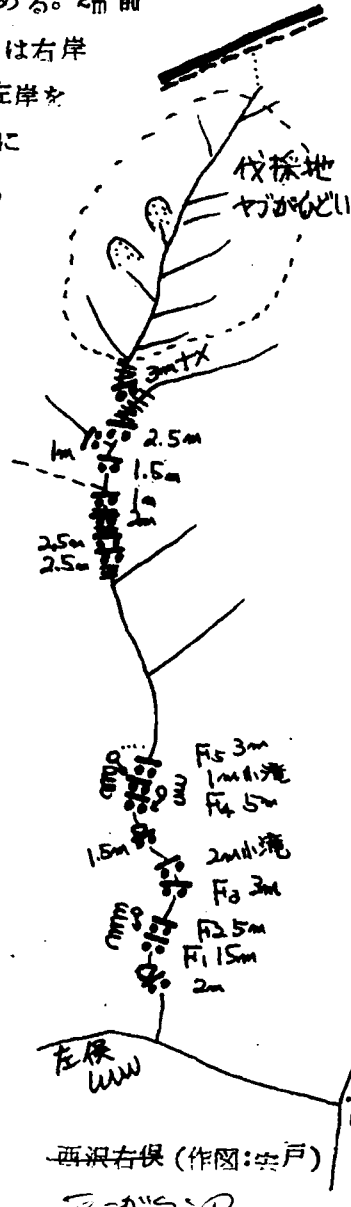
西沢右俣(下降)

1981年7月19日

L 宍戸幸務・佐藤邦宏・白石光子

下りはじめて10分程するとヤブがひどくなってくる。伐採あと地である。背丈程のやぶが前進をさまたげる。1時間程悪戦苦闘して、やっとぬけ出した。すぐに二俣。小休止してやぶこぎの疲れの回復につとめる。2m前後の小滝が続く。少し間をおいてF5 3m。ここは右岸をアップサイレンにて降りる。すぐ下のF4は左岸をクライミングダウン。初心者である白石・佐藤にはアップサイレンにて下降させる。少し下って、兩岸がガケになったところにF2, F1がある。ここが地図上の滝の記号がある所だ。F2は右岸をアップサイレン。F1はクライミングダウンできそうに思ったが、同じく左岸をアップサイレンにて降りる。この2つの滝を一纏に捲く跡が左岸についているので、これを使う方が簡単である。前方が明るくなると本流。そして、その先5分程で鳥川に出る。林道に登る道があったので、これを使って上に出た。(記・宍戸幸務)

下降開始(11:45)——鳥川(15:00)



と文殊記

横川一ノ沢(仮称)

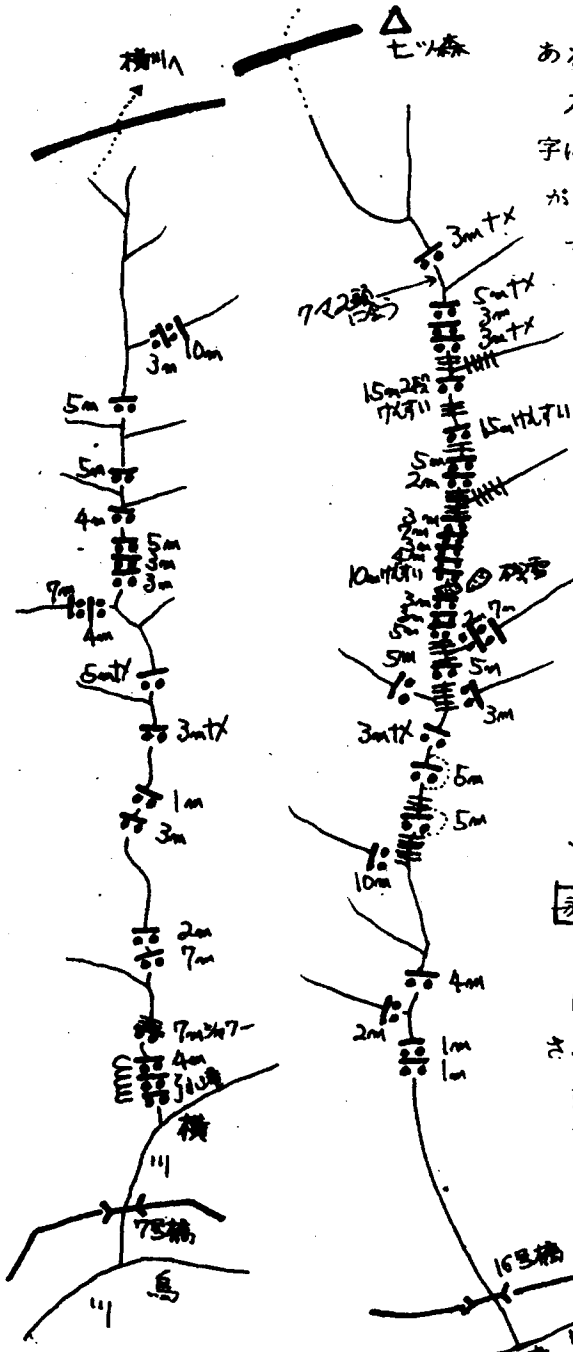
1981年7月19日

L 西和文・枝並実好・阿部和子

鳥川林道ゲートに車を置いて出発。1時間半ほどで横川出合。きれいな水の流れた。10分もしないうちに右岸から支流が入る。今日の予定はこの支流(横川一ノ沢と仮称する)の遡行だ。本流の方は何となく滝がありそうなふんいきが出てきたというのに、小さな支流に入らねばならないとは、何となく残念で

西沢右俣(作図:宍戸)

モヤウ記



横川一ノ沢 (仮称)
(作図:)

赤倉沢 (作図:)
大沢

ある。
入口は平凡であったが、少し進むとV字に切れこみ、滝のありそうな気配。滝が出てきた。5m程度のものが3つ。いずれも直登。ホールド豊富で今日が沢降り2回目の阿部さんにとっても、手慣れた滝登りとなっただろう。こんな調子ならこの先も期待できそうである。

伐採がされて明るくなった部分を過ぎると、またV字に切れこんだ沢筋となる。小滝がいくつも出てくるので登るにあきない。稜線直下まで流れが続いて、11時40分尾根上に出る。(記)

出合(9:30)——尾根(11:40)

大沢 1981年7月12日
赤倉沢(下降) L

時間も遅いからぐずぐずできない。さっそく赤倉沢の下降開始だ。尾根の西斜面はプッシュがうすく、通過は比較的楽である。10分で沢の形態をとりはじめ、水流が出てくる。この沢も花岩罫のようだ。これなら期待がもてる。クマのフンが出てきた。まだ新しい。足跡や草の折れ具合からして今しがた通過したばかりのようだ。何だかいや